

9260

7
艦
隊
艦
船

9260

艦隊
艦船

2260

艦隊

定員

一航戰機密第一。五號

七年七月七日船川灣旗艦加賀

第一航空戰隊司令官

軍大臣

第一課長

定員

定員機裝兵裝等ニ關シテ意見ノ件上

航空本部

軍務局

總務部

技術部

意見

別紙

通

奉

候

加賀

艦

二

行隊長

置

要ス

要ス

井

三

改

善

ラ

要

第二部長

護

艦

明

装

置

改

善

ラ

要

要

要

要

第一部長

護

艦

明

装

置

改

善

ラ

要

要

要

要

總務部長

第一課長

對空防禦訓練

寫真攝影裝置

研究

裝備

研究

裝備

研究

裝備

研究

裝備

研究

對空防禦訓練、寫真攝影裝置、研究裝備

7.9.28

7.9.18

艦本接受 7.9.12

7.9.18

7.7.10

本航 7.8.4

受技航 7.8.29

7.26

ヲ要ス

航空五横張着艦飛行機制動装置ノ改善ヲ要ス
航空母艦飛行機昇降機作動速度ヲ増ス如ク改善ヲ要ス

(別紙添)

本件寫送付先

(終)

軍令部次長 軍務局長 航空本部長

艦政本部長 令一部長 令三部長

(別紙)

一、加賀級母艦ニ飛行隊長ノ増員ヲ要ス

昨年以來加賀(赤城)搭載ノ常用機數ハ逐次増加シ目下戦闘機九偵察機六攻撃機ニ計三十六機ヲ有シ之ニ伴フ飛行科員就中搭乗員ノ増員ハ教育訓練ノ實施ニ相當ノ困難ヲ加ヘタリ而シテ之等多數飛行機隊ヲ兵術上ノ要求ニ合スル如ク統制教育シ集團威力ノ使用ニ當リテハ隨時自ラ飛行隊ヲ指揮運用セシメ以テ教育訓練ノ徹底ト航空用兵能率ノ向上發達ヲ期センガ爲經驗豊富ニシテ十分ナル兵術眼ヲ有スル飛行隊長ヲ増員シ恰モ驅逐隊ニ練達ノ司令ヲ置カレアルガ如クシ以テ飛行長ヲ補佐セシムルヲ切要ナリトス

既ニ陸上航空隊ニ於テハ常用機十二乃至十六機ニ
 對シ概ネ一名宛ノ飛行隊長ヲ配シ適切有効ナ
 ル教育訓練並飛行機隊ノ指揮運用ニ當ラシム
 ルニ拘ハラズ任務職責ハ更ニ複雑多岐ナリ大
 型母艦飛行長ノ下ニ之ヲ補佐スベキ飛行隊長
 ナク三十六機ノ常用機ト之ニ伴フ人員ヲ指揮
 教育セシムルハ適當ナラザルノミナラズ偉大ナル空
 中威力ノ直接空中指揮者トシテモ加賀赤城ニハ
 飛行隊長三名(内一名ハ飛行長兼務)ノ定員ヲ速
 ニ増置スルノ要アルモノト認ム

ニ現夜間着艦照明装置改善ヲ要ス

目下當隊ニ於テハ言フ迄モナク兵術上ノ必要ニ基
 キ鋭意夜間發着艦ノ訓練ヲ勵行シ研究演練ヲ

林和希
此装置ノ長クモ
修ノノ何モ
修ノ

重ネツツアルモ現用着艦照明装置ハ着艦操縦
上相當ノ困難ヲ伴ヒ夜間發着艦ヲ操縦員ノ全
員ニ普及徹底セシムル事ハ至難トスル所ナリ
而モ本装置点灯中ノ母艦ハ艦外灯火ノ遮蔽
ヲ不可能ナラシメ水上艦艇ニ依ル被發見ノ公
算頗ル大ナルガ爲其ノ實用的價値ハ甚シク尠
キモノト思考ス

横須賀工廠航空機實驗部ニ於テ既ニ實驗
ヲ了シタル杵型照期装置ハ其ノ成績優良ニシテ
本装置ニ依ル夜間定所着艦ハ現裝備ノBBT
等ニ比シ遙ニ容易ニシテ晝間着艦ニ相當習熟
セル操縦者ヲ以テセバ夜間着艦ト雖敢テ困難
ナラザルヲ聞ク加フルニ水上艦艇ヨリノ視認ヲ

避ヶ被發見ノ機會ヲ減シ得ルノ利点ヲ有シ兵術的見地ヨリスルモ其、實用的價値ハ甚ク大ナルヲ信ズ母艦着艦照明装置トシテ速ニ本装置ニ改装スルノ要アルモノト認ム

三、航空戦隊掩護駆逐艦航空防禦砲銃ノ増備ヲ要ス

空中攻撃ノ目標トシテ第一ニ選バルル主力艦航空母艦ハ對空防禦砲力ノ重要ナルハ言ラ俟タザル所ニシテ之カ爲高角砲機銃等 裝備セラレアリト雖

之等防禦力ヲ以テスル防禦ハ既ニ敵航空機ノ攻撃占位点ニ到達セル時核ニ於テ漸ク不充分

ナガラモ之ヲ使用シ得ル程度ニシテ到底防禦ノ

目的ヲ達シ得ザル憾アリ然ルニ現在航空魚雷

戰急降下爆撃等敵航空機ノ肉迫攻撃ヲ受クル

新造艦艇飛六
七枚機銃
ノ外備砲力
對空大仰角
ナリヤ右
シテ之カ爲
高角砲機銃
等
ヲ要ス
ナガラモ之
ヲ使用シ得
ル程度ニシ
テ到底防禦
ノ目的ヲ達
シ得ザル憾
アリ然ルニ
現在航空魚
雷

戦時協制

航空戦隊の掩護

駆逐隊の附随

軍の掩護隊

航空隊の警戒

航空隊の砲力増加

トシの研究

場合、主力部隊及航空戦隊ハ何レモ出来得ル限
リ其ノ前方及周囲ニ直衛駆逐艦ヲ配備スルハ
最モ有効ナル警戒防禦法ナリト認メラルルニ至
レリ

現航空戦隊掩護駆逐隊、如キハ單ニ平時ノ人
命救助任務ノミナラス、平戦時ヲ通シ母艦ノ警戒

戒航空機ノ支援ニ重要ナル任務ヲ有スルモノニシ

テ之等駆逐艦、現装備砲銃ヲ以テシテハ防禦力甚

ク不充分ナルヲ以テ速ニ對空防禦高角砲及機銃

ヲ増備シ防禦法ノ訓練ヲ重ネ置ク要アリト認ム

四 對空防禦訓練、爲寫真撮影装置ヲ研究裝備

ヲ要ス

高角砲射撃ノ成績ハ漸次向上シツツアルモ對空

防禦砲火ノ効果ハ自在ナル行動ヲナス飛行機實
 物ニ對シテハ果シテ如何ナル程度ノモノナルカ大ニ
 研究ヲ要スルモノト認ム
 尚飛行機魚雷襲撃手ノ發達スルニ從ヒ是等雷撃
 機ニ對スル艦艇ノ主副砲ヲ以テスル防禦力特ニ直
 衛駆逐艦ノ防禦砲火ノ効果ニ付キテハ從來之ヲ測
 定スルノ方法ナク爲ニ對空航空機直衛配備驅
 逐艦ノ要否等ニツキテモ大ニ研究ヲ要スル現狀
 ナリ之等ノ研究ヲ促進スル爲對飛行機防禦用
 砲銃ニ望遠寫眞ヲ裝備使用スルコトトセバ効果
 判定上相當適切ナル測定ヲナシ得ルモノト認ムル
 ヲ以テ速ニ研究實用セララルニ至ランコトヲ望ム
 五、横張着艦飛行機制動裝置ノ改善ヲ要ス

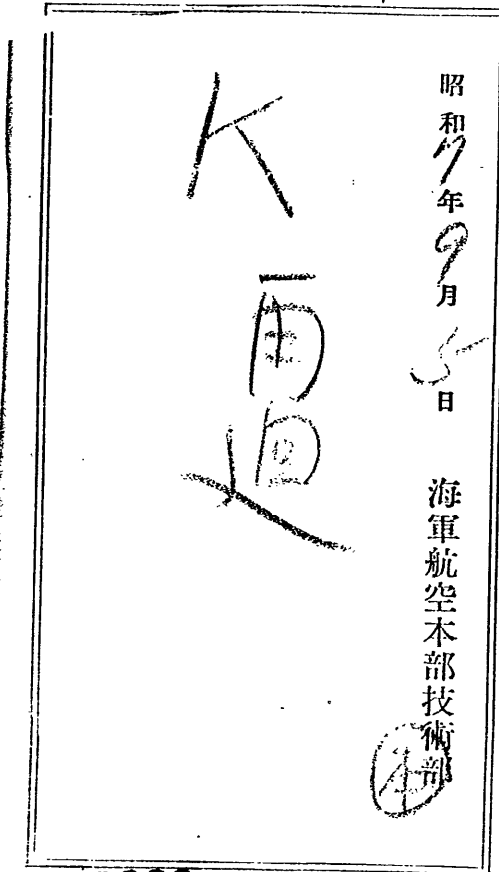
紙 箋 符

K

昭和7年

引核實
 〃大ニ
 雷撃
 狩ニ直
 之ヲ測
 備驅
 現狀
 禦用
 効果
 認ムル
 フ望ム

紙 箋 符



9860

鳳翔利勇機改修ニ付
研究申
同意

横張制動ノ實用的價値ニ關シテハ既ニ意見ヲ
提出セシ如ク本装置ヲ活用スル事ニ依リ飛行機
ノ着艦事故ヲ減ジ低速着艦ノ可能ハ燃料ヲ節
約シ從ツテ訓練回数ヲ増大シ且碇泊着艦ヲ容
易ナラシメ或ハ連續急速着艦ニ依ル收容能ノ向上
追風着艦ヲ可能ナラシムル等其ノ効果顯著ニシテ十分
ニ之ヲ活用シツツアル所ナルモ更ニ左記諸項ヲ考慮
シ本装置ヲ改善セバ一層其ノ効果ヲ期待シ得ルモノ
ナルヲ信ス

鳳翔裝備ノ萱場式ハ設計並工作上力量強度不
充分ニシテ故障生起ノ機會多ク一三式艦上攻撃
機ノ重荷重状態ニ於ケル着艦ニハ不安ヲ伴ヒ八九
式艦上攻撃機ニ對シテハ實用ニ適セザルベシ

又最も制動、確實ヲ要スル小型母艦ニ於テ僅カ

ニ本ノ横索ノミニテハ着艦状態不良ナル飛行

機ニ不拘束ノ機會ヲ生ジ事故發生、因ラナス

虞アリ故ニ速ニ機重 三〇〇斤以上合成風速五米

秒ニ耐エル力量ヲ有シ作動確實ニシテ信頼シ

得バク且横索ニ本ヲ有スル制動装置、新製裝

備ヲ要ス

(二) 加賀級大型母艦ニ於テハ多数飛行機、收容ヲ迅

速ナラシムル爲連續着艦ヲ行フノ要切ニシテ之ガ

爲横索ヲ更ニ一本増設シ現用第一索ノ前方ニ

裝備シ飛行機ヲ前部昇降機、後方ニ於テ確實

ニ拘束制動セシムル事トセバ殆ンド何等ノ不安ナク

少クモ前期訓練ノ終期ニ於テ連續着艦ヲ實施



飛行機止索機
備南信正前ウニ
設備困難ナルモ
横索四條ニシテ
付研究中

果降機重量柱ニ
 速度増大由要ス
 大重量柱の故に各處に
 ニ実施困難ナリ
 カウスターハランクスニ
 付速度増大法
 研究中！

シ得ルニ到ルベク之ニ因リ多数飛行機ノ同時使
 用ニ伴フ着艦費消時ヲ短縮シ飛行機ノ航續力
 ヲ増大スルノ効果大ナルモノト認ム

六母艦飛行機昇降機作動速度ヲ増ス如ク改善ヲ要ス
 當隊母艦飛行機收容作業ハ漸次練達ノ域ニ達シ
 加賀ニ於テハ急速連續着艦ヲ實施シ得ルニ至リ
 毎機收容平均所要時間ハ一分三十秒トナリ年度
 初頭ノ二分三十秒ニ比シ甚シク短縮セラレ四十機ノ
 收容作業ニ於テハ四分、時間ヲ短縮シ爲ニ艦
 隊戦闘中反復攻撃ヲ容易ナラシメ甚シク使用
 機數ヲ増大スルニ至レリ然ルニ現加賀裝備ノ昇
 降機ハ上下速度遅ク降下ニ二十秒上昇ニ三
 十八秒計一分ヲ要シ連續着艦セル飛行機ハ此



時間空シク甲板上ニ待タシメラルル状況ナリ
 即チ飛行機收容速度ハ一ニ昇降機ノ上下作動
 速度ニ依ル事トナレリ又鳳翔ニ於テハ連續着艦
 困難ナリト雖現昇降機ハ上下作動速度甚シク
 遅ク其ノ飛行機收容時間ノ大半ヲ費ス状況ナリ
 右ノ状況ナルヲ以テ此ノ際速ニ母艦昇降機作動
 速度ヲ増大スル如ク改善スル事ハ搭載機数ヲ
 増加スルト同様緊要事ナリト認ム

(終)

0070	3	20	水

第三艦隊
ヲ処理セリト
申上ル代
ハ

軍務局長

T660

軍務局長

第遣外艦隊機務第七號ノ二四

昭和七年四月二十一日漢口機務安宅

第一課長 司令官 遣外艦隊司令官

海軍省機務局長

海軍省人事局長 殿

第三艦隊參謀長

漢口陸戰隊機務員増員ノ件照會

別紙理由ニ依リ左記ノ通漢口陸戰隊機務員ニ増員方御取計相

成度

記

一兵科 一六名

由訳 常備兵(兵) 一五
常備的兵 一

無章兵(兵) 一。

海軍

二、機關科 工作科

機關兵曹長一、機關兵曹二、機關兵四、

内譯 機關兵曹長一、機關員ノ監督指導等ニ任ズベキモノ

工業出身ヲ可トス

機關兵曹二、掌機一、(高機若クハ普通機ニテ自動車機ニ經驗アルモノ)

掌電機一、(高電機若クハ普通電機)

機關兵四、掌工(鍛冶一、鉄釘一、鑄造一、木具一)

三、主計科

主計兵 二(非經理)

四、醫務科

看護兵 一、

(別紙添)

(終)

別紙

海軍

漢口陸戰隊殘留員増置員數

一兵科部

増置員數一六名

内譯

掌砲水兵(五)

(山砲、野砲、曲射砲、重輕機、小銃、拳銃)

各組(一)

掌測的兵(一)

(電話器、人含内電氣裝置、諸電機兵器整備に充てり)

無章水兵(一)

理由

一各兵器保存整備所要員數

兵	小	拳	重機	輕機
銃	銃	銃	銃	銃
數	一	一	三	一
量	二	〇	〇	六
就業員	一	一	二	二
全時間	一	一	二	一
延工數	一	一	一	三
記事	〇	〇	〇	二
每週施行	〇	〇	〇	〇

八輝山砲	五輝野砲	曲射砲	戰車全部	電氣具, 他兵器倉庫整理等	合計	二週課ハ左記ニ依ル	耀午	月	火	水	木	金
四	四	四	六				前	精神教育 精進点檢	保存整備	保存整備	教育訓練	保存整備
三	三	二	二	二			後	保存整備	全上	教育訓練	保存整備	全上
二	二	二	二	六			記 事 午前午後就業時間ヲ各ニ時間トシ土曜午後ハ半艇ナルヲ以テ一時間トス然ル時ハ一人一週整備就業時間					
一	一	八	二	二	四五二							
二週一回施行	ク	ク										

海軍

		土		大	
		保安教練		除	
		保存整備			
日		休		業	
<p>三、二項ヨリ一時間所要員数ヲ求ムレバ三〇人ナリ</p> <p>452+15=301</p> <p>四、現在當直勤務其他ニ就業ニ得ル員数左ノ如シ</p> <p>一、現員及役員</p>					
官等級		水兵員		信令上以外	
下士官		六		二	
兵		一八		一	
<p>三、就業可能員数</p> <p>一、非番當直下士 二</p> <p>二、非番當直 八</p> <p>三、砲術科倉庫員 二</p>					
		役		員	
		信令當直ニ		砲術科倉庫員一	
		當直下士四		先任下士一	
		當直一六		砲術科倉庫員一	
		兵三		砲術科倉庫員一	

海軍

① 従兵 二

合計 一四

五、依テ所要員數三名就業員數一四名ナルヲ以テ一六名増置ヲ要ス
六、備考

右外左記事情ヨリ更ニ正味就業時間減少スルヲ考ヘ慮スル要アリ

① 祝祭日ハ^算入ニアラス

② 従兵砲術科倉庫員モ殆ンド全部就業員ニ算入シタモ若干無理ナリ

③ 休業入室患者等ヲモ多少ノ發生スルモト覺悟セザルベカラズ

④ 其ノ他艦隊或ハ所属基本部ノ聯合作業多數艦船ノ入港需
品ノ搭載諸儀禮等ノ爲作業豫定ヲ妨ケス

<p>二、機関科工作科ノ部</p> <p>増置員數 機関兵曹長一、機関兵曹二、機関兵四</p> <p>内譯</p>	
<p>機関兵曹長一、</p> <p>機関兵曹 二、</p> <p>機関兵 四、</p> <p>掌工(鍛冶一、鉄釘一、鑄造一、木具一)</p>	<p>機関員ノ監督指導等ニ任スルモノノ工業出身ヲ可ク</p> <p>掌機一(高級若クハ普機ヲ自動車機械ニ経験スルモノ)</p> <p>掌電機一(高電機若クハ普電機)</p>
<p>理由</p> <p>目下殘留機関科工作科員ハ下士官(工務班)兵六無章ノ計九名ヲ存ス如ク既員ナリ</p>	<p>作業 分担 擔</p> <p>配 員</p>
<p>自動車類ノ機械車入<small>(某車ニ章別車有リ)</small></p> <p>隊内電動機整備及電路補修</p>	<p>兵一名(有經驗者)</p>
<p>修理工業</p>	<p>兵一名(有經驗者)</p> <p>下士官一名(仕上)</p>
<p>補助正當道(直配直置一直三名)</p>	<p>兵六名</p>

右、如ク配員過少ナル爲常ニ作業ニ迫ルハ勝ナリ

上申中ノ工作施設モ近ク増備サルモノトセバ上海事変ニ敏ニ非常
時ニ直ニ工作隊員トナリ平時ニ於テハ砲艦驅逐艦用ノ修
理ヲ擔當セシムルモノ最少限度前記増員ヲ必要トス

三、主計科ノ部

増置員數ニ名

理由

從來残留員約五。名其ノ他病者約二。名對シ主計兵四
名ナルモ内一名ハ物品整理ニ充テ一名ハ准士官以上烹炊(下士官兵食
炊室ト別室)他ノ二名ハ下士官兵及病舎(患者食)烹炊員ニ充
テツツアルモ從來ノ經驗ニ依ルハ當地ノ如キ比較的不健康地ニ於
テハ殊ニ夏季ニ於テ疾病ノ多ク休業スルコト屢ニアルヲシカカル

場合之が代人トシテ他科兵員ノ補助ヲ受クルコトアルモ他科兵員モ餘裕ナキ員數ヨリ派出スルハ頗ル困難ノ状態ナリ故ニ此ノ際兵科ノ増員ニ伴ヒニ名増員ヲ希望ス

四、警務科ノ部

増置員數一名

理由

從來、患者収容状況ヨリ着ルニ九江ヨリ上流ノ警備艦於テ發生セシ患者ハ殆ンド當舎ニ収容シツアリテ病舎ハ常ニ満員ノ状態ナリ且ツ入舎當時ハ重症ノ患者比較的多ク増置^直ヲ要スルモノ又ハ午糲ヲ要スル者等相當アリ殊ニ例年夏季ニ至ルハ傳染病患者發生シ昨夏ノ如キハ収容患者一日四十三名ニ及ビシコトアリ加フルニ當舎看護科員ハ

1000

下士官ニ名兵四名ニテ日常ノ勤務繁劇ニ依リ是非
一名増員ヲ希望ス

(終)

海軍